

2020 年 8 月 7 日

担当者: 若山 崎

韓国 6 月原油輸入量

前年比 12.6% 減

【ソウル】世界第 5 位の輸入国である韓国の原油輸入量が 6 月、前年比 12.6% 減少したことが明らかになった。顧客データによると、前年同期の 114.9 万バレルから減少し 100.4 万バレル（24.5 万バレル）になったという。

米国産が前年とくらべて 39.2% 減少し、66 万 1367 バレル（16 万 1594 バレル）。イラク産も 58 万 4942 バレル（14 万 2921 バレル）まで 50% 大幅に減少した。

しかしサウジアラビア産は、前年同期の 36.7 万バレルから 7.8% 増

【ソウル】世界第 5 位に加え、39.6 万バレル（96 万 7165 バレル）に到達。メキシコ産も、前年比 21.7% 増の 70 万 7669 バレル（17 万 2907 バレル）に達した。

イラン産は昨年 5 月以来、輸入が停止したままとなっている。

一方、上半期（1-6 月）の全体の輸入量は、前年同期比 7.9% 減少し 66.95 万バレル（約 270 万バレル）だった。

情報筋は、新型コロナウイルスの世界的大流行により製品需要が減少したことが、原油輸入量減の主な原因とみている。

2020 年 8 月 7 日

担当者: 岩崎

全米原油在庫が増加

EIA「減少には数年必要」

7月第1週

【ニューヨーク】全米の原油在庫が7月第1週、前週から増加したことが明らかになった。

EIA（米エネルギー情報局）によると、310万バレルの予想に対し570万バレル増加し5億2448万バレルになったという。とくにメキシコ湾の在庫が記録

的高水準3億900万バレルに達したとした。各在庫の増加は、低水準の製品需要のほか、輸入量が大幅に増加したことが主な原因。

全米の原油輸入量はメキシコ産を中心に前週比213万バレル増加し、2019年8月以来の最高水準501万バレルに達したという。

ガソリン在庫は7月第1週、前週比480万バレルの大幅減。ジェット燃料などの中間留分は310万バレル増加し、1983年以来の最高水準1億7730万バレルに達したとした。

EIAは、需要が回復傾向にあるものの、各在庫の減少には数年かかるかとみている。

ウメモト インフラオメーション

2020年8月7日

担当者：小松

ポリエチレン 10円以上値上げ

旭化成

旭化成は、9月1日出荷分からポリエチレンを値上げする。対象は「サンテック―LD」「同―HD」「同―EVA」「クレオレックス」で、改定幅は1キログラムあたり10円以上。原油・ナフサ価格の上昇により、第3四半期（7～9月）以降はさらなるコスト上昇が予想される。これまでコストダウンに取り組んできたが、自助努力での吸収は困難となり、価格を改定せざるを得ないと判断した。

2020 年 8 月 7 日

担当者: 岩崎

ベンゼン、アジアで上昇

8月3.5%高 米向け輸出拡大観測

合成樹脂や合成ゴムの原料となる基礎化学品ベンゼンのアジア向け価格が3カ月連続で上昇した。指標となるENEOSの8月の契約価格は、1ト440ドルと前月に比べ15ドル(3.5%)高い。在庫調整が進む米国に向けアジアからの輸出が増えるとの観測が押し上げ材料となった。

ベンゼンは新型コロナウイルスの感染がいち早く落ち着いた中国の需要が堅調な一方、米国で

は需要の回復が遅れている。6月末ごろまではアジアの価格が米国より高かったため、アジアから米国への流入が細った。

米国では製油所の稼働率引き下げに伴い国内でのベンゼン生産も減少し、需給が引き締まってきた。米国の経済活動の再開でベンゼンを原料に使うプラントの稼働率が

上向いている。米国のベンゼン価格が再びアジアより割高となり、アジア

からの輸出が増えるとの観測が強まった。

アジア向け価格の上昇を受け、日本国内の想定価格も前月比0.7円(1.4%)高い1*51.7円と、3カ月連続で値上がりした。



2020 年 8 月 7 日

担当者: 小松 -1

化学工業日報 2020年(令和2年)8月7日(金曜日)

自動車、住宅・家具など回復期待

ウレタン原料の需要は、自動車・住宅・家具などを中心に回復が期待されている。自動車は、コロナ禍の影響で生産が停滞しているが、政府の補助金を受け、生産が再開され、生産量が回復している。住宅・家具は、コロナ禍の影響で生産が停滞しているが、政府の補助金を受け、生産が再開され、生産量が回復している。

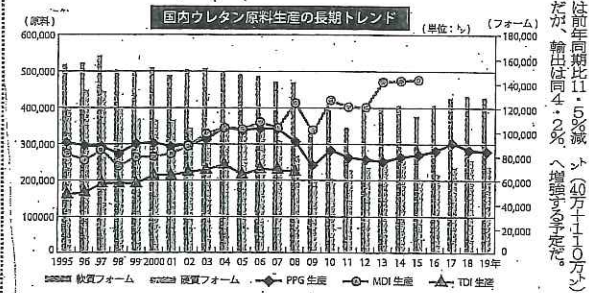
ウレタン原料

ウレタン原料の需要は、自動車・住宅・家具などを中心に回復が期待されている。自動車は、コロナ禍の影響で生産が停滞しているが、政府の補助金を受け、生産が再開され、生産量が回復している。住宅・家具は、コロナ禍の影響で生産が停滞しているが、政府の補助金を受け、生産が再開され、生産量が回復している。

海外市場は増産相次ぐ。19年市況軟化で輸入増加。MDOは、冷感樹脂として、自動車・住宅・家具などを中心に需要が増えている。MDOは、冷感樹脂として、自動車・住宅・家具などを中心に需要が増えている。

20年生産 5月から急減。夏用冷感マスク需要も。ポリウレタンは、冷感樹脂として、自動車・住宅・家具などを中心に需要が増えている。ポリウレタンは、冷感樹脂として、自動車・住宅・家具などを中心に需要が増えている。

国内ウレタン原料生産の長期トレンド。1995年から2019年までの生産量と消費量の推移を示すグラフ。国内ウレタン原料生産の長期トレンド。1995年から2019年までの生産量と消費量の推移を示すグラフ。



国内ウレタン原料生産の長期トレンド。1995年から2019年までの生産量と消費量の推移を示すグラフ。国内ウレタン原料生産の長期トレンド。1995年から2019年までの生産量と消費量の推移を示すグラフ。



ウメモトインフオメーション



2020年 8月 7日 担当者: 小松

〔ウレタンフォームの生産・出荷推移〕 (単位: 千、前年比%)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	前年比	2020年 1~5月	前 年同期比
軟質	生産	113,147	122,257	128,305	129,881	99.1	44,209	83.3
	出荷	107,961	117,237	123,745	125,802	99.7	42,966	83.0
硬質	生産	61,319	65,464	71,130	76,976	92.8	23,425	79.5
	出荷	49,822	53,215	61,658	68,527	94.2	21,514	82.5
合計	生産	174,466	187,721	199,435	206,857	96.8	67,634	82.0
	出荷	157,783	170,452	185,403	194,329	97.8	64,480	82.8

〔ウレタン原料の生産・出荷推移〕 (単位: 千、前年比%)

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	前年比	2020年 1~5月	前 年同期比
PPG	生産	270,861	281,676	303,018	283,424	98.6	100,841	89.0
	出荷	244,618	258,968	268,138	250,262	96.0	86,724	87.8

(経済産業省化学工業統計)

コロナ下でも輸出健闘 中国からの輸入が再開

TDIは、製造メーカー数が少なくなったため、09年から経済産業省統計で数字が公表されなくなった。最後に報告された08年の生産量は約22万4500トン。国内のTDI生産能力は、三井化学と韓国SKCの合併である三井化学SKCポリウレタン(MCNS)の12万トンと、東シオンの2万6000トン。国内需給は5万7000トン。中国向けはほぼ半減となり、残りの非発泡のOASB(コーティング・ドレーシング・シート・トラストマ)関係は好調だったのに対し、4

TDIは、製造メーカー数が少なくなったため、09年から経済産業省統計で数字が公表されなくなった。最後に報告された08年の生産量は約22万4500トン。国内のTDI生産能力は、三井化学と韓国SKCの合併である三井化学SKCポリウレタン(MCNS)の12万トンと、東シオンの2万6000トン。国内需給は5万7000トン。中国向けはほぼ半減となり、残りの非発泡のOASB(コーティング・ドレーシング・シート・トラストマ)関係は好調だったのに対し、4

TDIは、製造メーカー数が少なくなったため、09年から経済産業省統計で数字が公表されなくなった。最後に報告された08年の生産量は約22万4500トン。国内のTDI生産能力は、三井化学と韓国SKCの合併である三井化学SKCポリウレタン(MCNS)の12万トンと、東シオンの2万6000トン。国内需給は5万7000トン。中国向けはほぼ半減となり、残りの非発泡のOASB(コーティング・ドレーシング・シート・トラストマ)関係は好調だったのに対し、4

特殊化展開に広がり

PPG 環境対応製品も続々

ウレタンフォームを生産する際、TDIやMDIなどのインジアン成分と組み合わせるポリオール成分の代表が、Gである。化学工業統計による2019年のPPG生産は、27万6000トン(前年比1.4%減)。出荷は24万1467トン(同4%減)となっている。今年1~5月は好生産が前年同期比11%減、出荷は同12.2%減と推移している。貿易統計では単独の項

として集計されていなく、輸出入の動向をつかむのは難しいが、マテリアルなどの汎用性用途には価格の安い輸入品が多く使われている。国内産品を中心とした特殊品が中心となり、インジアン成分との組み合わせを工夫して高付加価値用途に展開しているという志向が強い。ポリオールの特殊化を進め、より高付加価値な製品を開発している。また、MCNSがイン

TDIは、製造メーカー数が少なくなったため、09年から経済産業省統計で数字が公表されなくなった。最後に報告された08年の生産量は約22万4500トン。国内のTDI生産能力は、三井化学と韓国SKCの合併である三井化学SKCポリウレタン(MCNS)の12万トンと、東シオンの2万6000トン。国内需給は5万7000トン。中国向けはほぼ半減となり、残りの非発泡のOASB(コーティング・ドレーシング・シート・トラストマ)関係は好調だったのに対し、4

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報

2020 年 8 月 7 日

担当者: 岩崎

国際帝石の今期

1360億円最終赤字

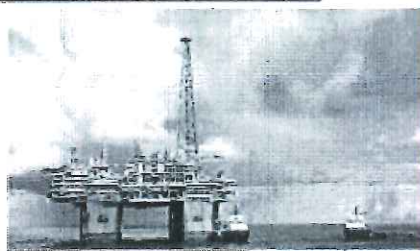
出光は813億円最終赤字 4～6月

国際石油開発帝石は6日、2020年12月期の連結最終損益が1360億円の赤字になる見込みと発表した。通期での赤字は初めて。石油・ガス価格の急落を受け、オーストラリア沖の開発プロジェクトなどで20年4～6月期に計1924億円の減損損失を計上した。出光興産も原油安が響き、20年4～6月期決算は8

13億円の最終赤字(前年同期は359億円の黒字)だったと発表した。国際石油開発帝石は今期の最終損益を100億円の赤字とした。従来予想から1460億円下方修正した。前期は9カ月間の変則決算で1235億円の黒字。売上高は7300億円で、従来予想から200億円引き上げた。下期の原油価格の想定レ

ートを1円30銭から40銭に上げたため。年間配当は前期比6円減の24円とする予想を据え置いた。減損損失1924億円のうち豪州沖で手掛ける液化天然ガス(LNG)プロジェクト「プレリュード」が1308億円を占めた。販売価格の長期見通しを引き下げたほか、生産低迷も響いた。このほか、米国のシェールオ

イル事業やメキシコ湾油田事業でも減損計上。主力プロジェクトである豪州LNG事業「イクシス」



での計上は見送った。出光興産の20年4～6月期は、売上高が前年同期比33%減の9828億円、営業損益と持ち分法投資損益を合わせた本業ベースでの損益は975億円の赤字(前年同期は327億円の黒字)だった。未定としていた21年3月期の年間配当は前期比40円減の120円とした。

国際石油は豪州沖で複数LNG事業を手掛ける



ウメモト インフォメーション



2020 年 8 月 7 日

担当者: 水谷

出光、潤滑油の子会社を英蘭シェルに売却

環境エネ・素材

2020/8/6 20:52 | 216文字

🔖 保存 📧 共有 🖨️ 印刷 🗨️ 📱 🐦 📘 その他▼

出光興産は6日、完全子会社のシェルルブリカンツジャパン（東京・港）の全株式を英蘭ロイヤル・ダッチ・シェルグループに譲渡すると発表した。株式譲渡契約を締結し、20年12月末にも株式の譲渡を実行する。

出光は2019年4月、昭和シェル石油と経営統合した。これまで出光ブランドの潤滑油事業は出光、昭シェルブランドの国内潤滑油事業はシェルルブリカンツジャパンが手掛けてきた。譲渡後は出光ブランドの潤滑油事業に経営資源を集中し、事業強化を図る。

引用記事 : 日本経済新聞^{電子} ・ 燃料油脂新聞 ・ 化学工業日報

三菱ケミカル

遮音材 1/8の軽さ

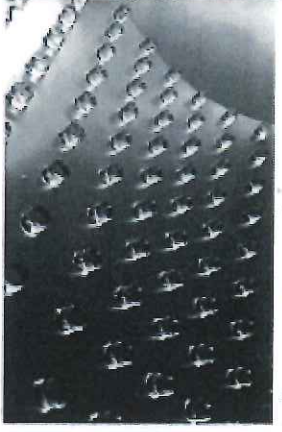
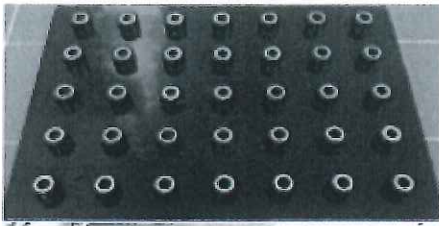
音響メタマテ技術応用

三菱ケミカルは、軽さと静かさを両立した遮音材を新たに開発した。音響メタマテリアル技術を採用、重い遮音効果が得られる質量型という物理の常識を覆し、同じ遮音性能を維持しながら従来材の1/8分の1に軽さを実現。プラスチックシート上に突起を配置し、侵入する音波が突起が共振し跳ね返す構造で、性能・形状とも特許を取得した。室内の静粛性ニーズが高まっている自動車をはじめ幅広く市場を開拓する。

三菱ケミカルは、2015年から東京工業大学と共同で音響メタマテリアル技術の研究を開始。日本や欧州で車外騒音規制が強化されているほか、電気自動車（EV）をほ

じめ車内の静粛性に対するニーズが高まっていることから、樹脂加工技術や金属との複合技術などを駆使し、遮音材の開発を進めてきた経緯がある。

低周波の遮音性能に優れるタイプとより高周波に対応し透明性もあるタイプ



プラスチックを用いて軽量の遮音材を開発した。800ヘルツの遮音性能を試験したところ、遮音損失10分の遮音性能を得るのに、従来と1平方メートルあたり60kg必要なのに対して、開発した遮音材は同

7・8kgと約8分の1の軽さで達成している。開発した遮音材は、シリコーンエラストマーのシート上に樹脂と金属からなる突起を配置した遮音材と、透明なポリエス

テルシート上に透明な樹脂の突起を配置した遮音材の2種類ある。前者はとくに1000ヘルツ以下の低周波領域であるロードノイズやエンジン音などの遮音に優れ、後者はより高い周波数に対応できる透明な環境を提供できる特徴がある。

同社は自動車のほか、電車、建設機械、音響メタマテリアル、空調機、ロボット、コンプレッサーやソーラーパネルといった工場設備から幅広く市場開拓を進めていく。また突起の硬さ・高さ・重さを調節することで、より幅広い周波数領域に対応できることを見いだし開発を加速する。